平成２８年度　ＮＩＥ実践報告

南九州市立川辺中学校国語科　　東　まどか

１．以前の取組について（実践校としての活動を始めるにあたって）

はじめに，本校がＮＩＥの実践指定校となった経緯として，読書指導で新聞の活用を試みた期間について触れたい。本校では，平成２７年度の南九州市の図書館運営研究大会において，南日本新聞社の「よむのび教室」や新聞記事を利用した設営，読書への興味・関心と図書室利用を喚起するイベントなどについて発表した。その取り組みから，本校の生徒たちにとって新聞は「近寄りがたいもの」「自分たちに全く関係ないもの」という存在から「案外読みやすいもの」「身近な話題があるもの」という存在へと変化した。

新聞記事と関連する本も展示して紹介（『18歳の選挙権』など　）

以前から一部の生徒に人気のスポーツ大会結果

盛り上がったよむのび教室で新聞にも親近感を持てた

職員研修でNIEについて講話（読書指導を全体的に進めていく目的でのもの）

読書指導の中心である国語科では，教科指導でも新聞の活用方法について模索した。教育総合センターの講座で「南風録スクラップ帳」の紹介を受け，生徒が文章の構成について知り，語彙を増やすことを目的として全学年で取り組ませることにした。

また，今年度からＮＩＥの実践指定校の活動を始めるにあたり，まずは国語科の指導で生徒たちが新聞によく触れ利用し，思いをもつことをねらいとした。

２．国語科の取り組みの実際

（１）　新聞感想文コンクールへの参加

例年，夏休みの課題で作文を一つ提出することになっている。昨年度からは新聞への興味・関心や利用頻度が高まっているであろう３年生に，読書感想文との選択制で参加させた。新聞を購読している家庭は全体の３～４割程度であるため図書室の新聞を切り抜いて良いこととした。生徒が図書室を利用するので，夏休み期間中の読書指導にもつながった。

中学の部　入　選

地球の未来と可能性

川辺中学校
三年　榎木　颯汰

八月六日。日本にとっては忘れてはいけない「原爆の日」。今年で七十一年目を迎える。この日の新聞のトップ記事はリオ五輪に占められたが、それでもちゃんと一面に載っていた。

今年五月二十七日、オバマ大統領が現職の米大統領として初めて広島を訪問した。スピーチでオバマ大統領は「私の国のように核を保有する国々は、核兵器なき世界を追求する勇気を持たなければなりません」「原爆で亡くなった人たちは、私たちと変わらないのです」と話した。私はそのとき、アメリカも今から七十一年前の行いを深く反省し、日本とともにこれからの世界を変えていこうと願っているのか、と感動した。

その日営まれた平和祈念式典では、市長が平和宣言をし、核廃絶を呼びかけた。

日本は唯一の被爆国である。終戦後、日本は実体験をもとに世界中に核の悲惨さ、戦争の無意味さを訴え続けてきた。厚生労働省によると、被爆者の平均年齢は今年三月末時点で八十・八六歳となった。戦争の実体験を語る語り部さんたちの姿も年々減ってきている。ラッキーな世代に生まれた私たちに、戦争への危機感は全くと言っていいほどない。平和学習もするが、現実味がわかない遠い過去のことと、今の自分を重ね合わせるのは容易ではない。今この瞬間、手に武器を持ち、命の危険を感じながら毎日を怯えて暮らす子供たちがたくさんいるというのに！戦争を経験したことがない私が戦争について語っても説得力がないのは自明だが、日本国民一人一人が危機感を持って、戦争と向き合っていかなければならない。

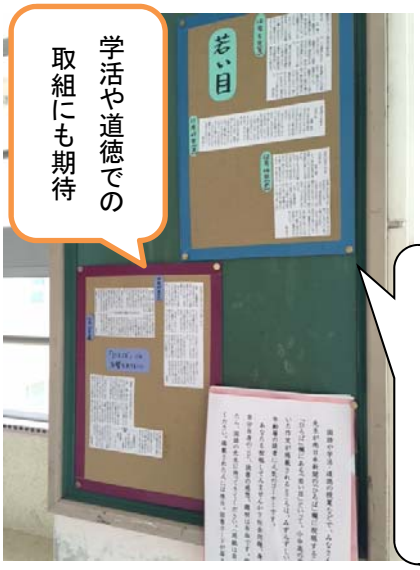
平和宣言で広島市長は原爆を「絶対悪」と言っている。それなのに現在、地球上には原子爆弾の威力をはるかに上回り、地球そのものを破壊しかねない一万五千発を超える核兵器が存在するという。戦争が終わって七十一年、核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになっている。テロリストによる使用も懸念されている。最悪の事態がいつ起きてもおかしくない状況なのである。そうならないためにも、全人類が力を合わせて行動しなければならない。

この記事を読んでも、「行動」という言葉がたくさん使われていることが分かる。誰しも、どんなことであっても、自分が行動するのはとても勇気がいることだ。私も、今までそうやって自分から行動せずにチャンスを逃してしまうことがたくさんあった。しかし、これから大人になっていく私たちの目の前にはチャンスが転がっている。「可能性は無限大」という言葉がよく使われるが、その無限の可能性の中を生きている私たちの中で必ず、二度と繰り返してはいけない「戦争」という過去。私たちの手でこれから先の平和への考え方が変わるかもしれない。それはある意味「無限の可能性」を秘めているのだ。

これから先、憲法第九条が変わったとき、戦争に核兵器が普通に使われるようになったとき、そんなときに私たちは行動できるのか。最初は少なくてもいい。小さくてもいい。みんなと力を合わせて声を上げることができるのか。そして、それが実現したときこそ、世界中の人々の努力が報われるのではないだろうか。

戦争。それは、地球の歴史の一片を形づくった出来事であり、早急に失くさなければならない言葉である。新聞は戦争の記憶のように、いつまでも残しておける現代社会の大事なツールなのだ。

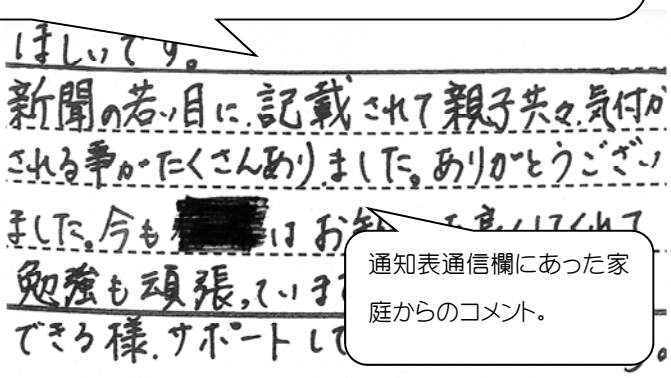
（２）　ひろば欄「若い目」への投稿



学活や道徳での取組にも期待

自主的な投稿を促す掲示を試みているところ

3年生女子生徒の，ある投稿が読者の反響を呼び，紙面を賑わわせた。学校あてに匿名で生徒の気持ちに寄り添う内容の手紙も届いた。本人や周囲の成長につながる出来事だった。（親子間にも一石を投じた様子だった。）

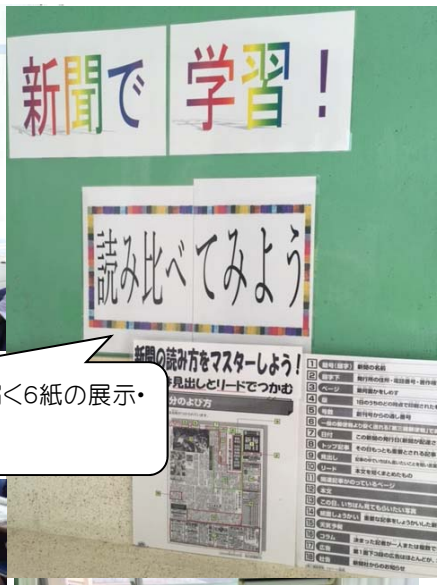

ほしいです。
新聞の若い目に記載されて親子共々気付かされる事がたくさんありました。ありがとうございました。今も[redacted]はお知
勉強も頑張っています
できる様サポートして

通知表通信欄にあった家庭からのコメント。

（３）「よむのび教室」の実施

前年度から引き続き，どの学年の生徒も三年間で１回は経験できるように，とタイミングを図って実施している。新聞の読み方を知るだけでなく「５Ｗ１Ｈ」をよく理解し，自分の文章表現に役立てようとする態度につながっている。毎回「まわしよみ新聞」のワークショップが盛り上がる。

その体験を生かして，授業で時事問題を扱ったノンフィクション（『エルサルバドルの少女ヘスース』光村）を学習した後には，関連の記事を探して模造紙にまとめるという活動も行った。

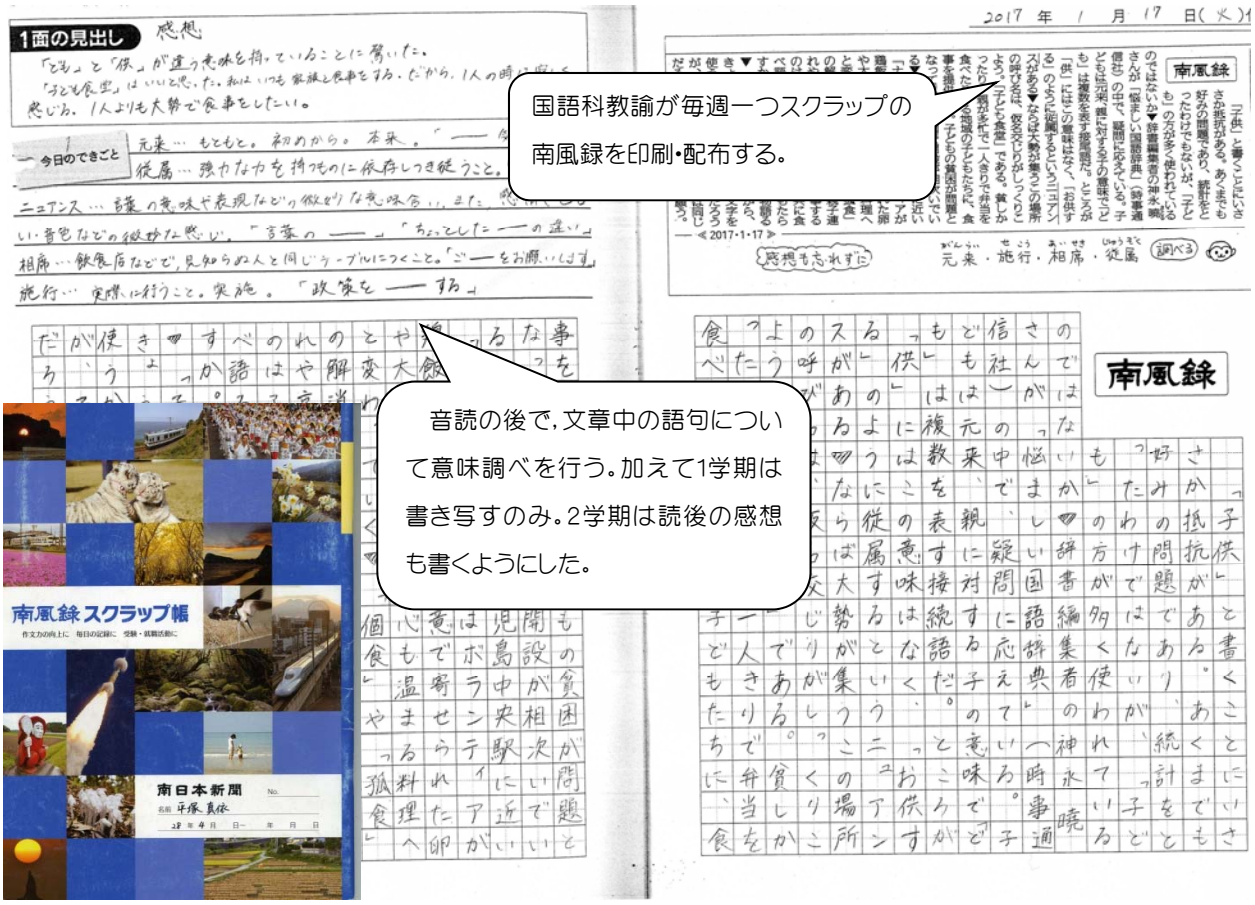


学校司書による掲示。毎日届く6紙の展示・更新を担当してくれている。

出来上がった「まわしよみ新聞」はグループごとの味があっておもしろい。新聞の閲覧場所である図書室前の廊下に掲示してある。

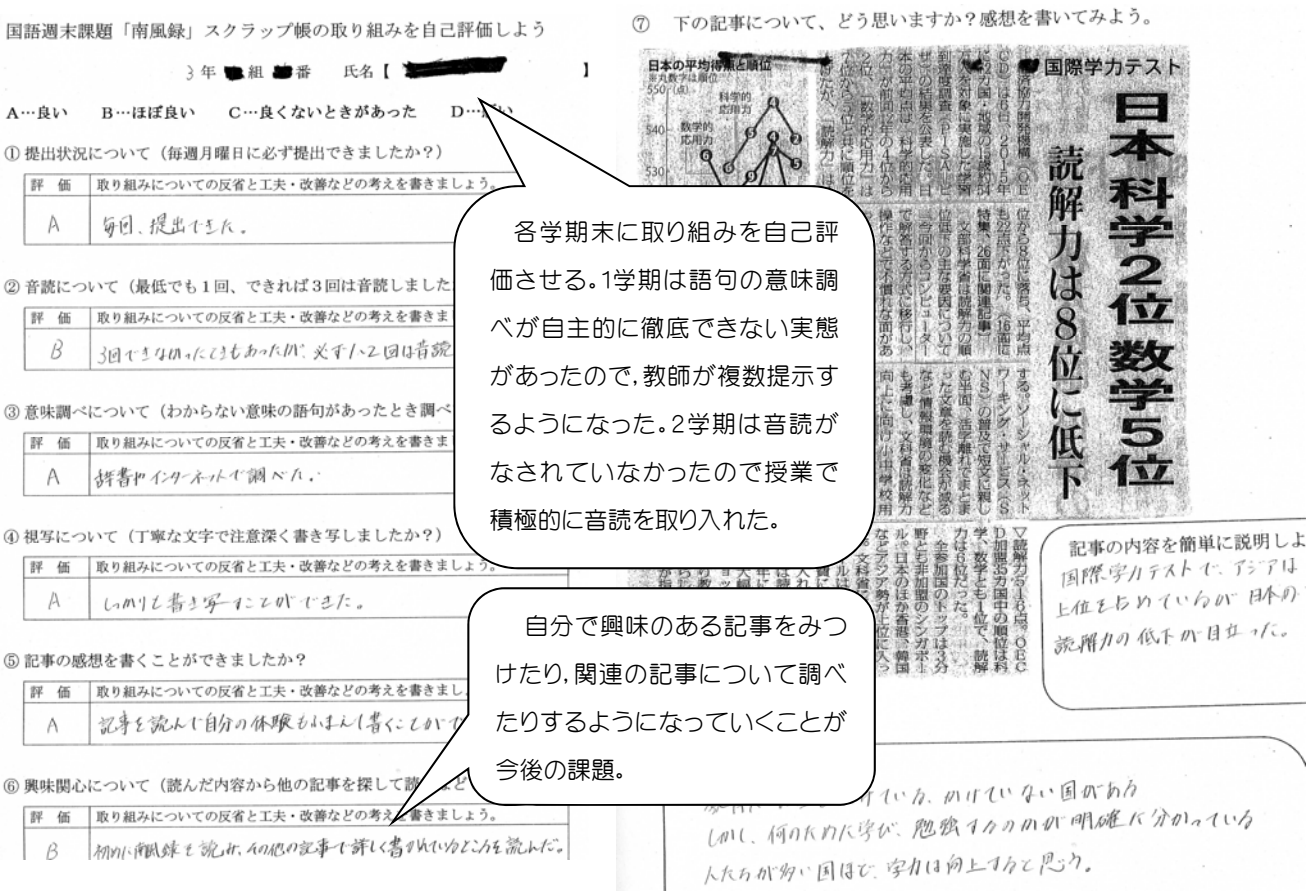
3年生が「シリア」「難民」「紛争」などをキーワードとして，記事探し。6紙の新聞をめくりながら，記事の取り扱い方の差，記者の受け取り方や書き表し方，文体の違いなどに気付く生徒もいた。

（３）週末課題としての「南風録スクラップ帳」

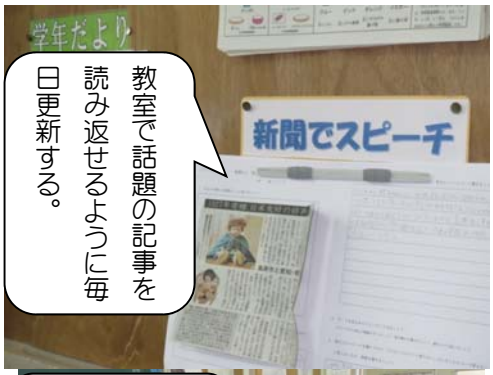
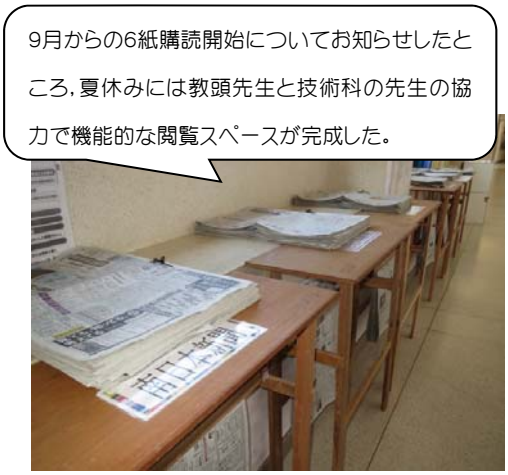
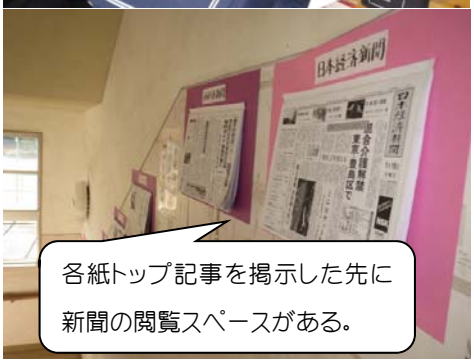


国語科教諭が毎週一つスクラップの南風録を印刷・配布する。

音読の後で，文章中の語句について意味調べを行う。加えて1学期は書き写すのみ。2学期は読後の感想も書くようにした。



３．今後について（成果と課題）

国語科でのＮＩＥを進めていく中で，生徒にとって新聞は「学校でいつでも読めるもの」になってきている。もっと自ら主体的に新聞を手にする機会が増えれば，と３年生の学活で新聞記事を話題にしたスピーチに挑戦させた。「社会を知る」きっかけになるだけでなく，身に付けた語彙で「話す」練習の場になる活動であると言える。生徒の活動の様子が活発で意欲的だったので，全校的な取り組みに発展させていきたいと考えている。（総合的な学習の時間に日常的に，また行事としての校内弁論大会など。）

１２月の人権週間に合わせて設定されている「心の日」における道徳一斉授業では，各学年で新聞記事を利用した。例年，いじめについて考える週間に合わせて６月にも「心の日」があるので，今後も継続して新聞を利用する機会にしたい。今年度は，他教科への呼びかけや研修はあまりできていないので，次年度に向けては国語科の実践や全国的な取組を参考にして各教科等でのＮＩＥ実践計画を話し合いながら現在教育課程編成を行っている。指定校としての２年目は教師一人一人の指導力を向上させ，また生徒の確かな学力を定着させるための良い研修になるだろう。